

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和6年度第4回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和6年11月8日（水）13時30分～15時00分
3 開 催 場 所	宝塚市役所 3B 会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■木下委員 □筒井委員 ■大西委員 □温井委員 ■石井（宏尚）委員 ■林委員 ■皐月委員 ■西本委員 ■金森委員 ■石井（隆司）委員 ■槇委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	■ 可 □ 不可 □一部不可
7 議題及び結果の概要	1 宝塚市の家庭教育について （1）子ども家庭支援センター主催講座説明 （2）意見交換 2 報告事項 （1）令和6年度阪神北地区社会教育委員協議会 第1回研修会 （2）令和6年度兵庫県社会教育研究大会 3 その他

令和6年度第4回宝塚市社会教育委員の会議 議事要旨

1 宝塚市の家庭教育について

(1) 子ども家庭支援センター主催講座説明（子ども家庭支援センター職員）

当センターが実施している講座は妊娠期から概ね15歳までの子どもがいる保護者を対象にしている。子どもの成長過程に合わせた講話や参加者同士のグループワークを通して、子ども理解と仲間づくりを目的にしている。また、子育て不安の解消も大きな目的としている。子育てサポーターの養成講座を実施しており、地域における子育て支援を活性化させ、家庭教育の支援に繋がるよう推進している。

（実施事業の詳細は子育て情報誌「きらきら」の5ページをもとに説明を行う）

(2) 意見交換

（委員）

講座参加者が自ら子育てサークルを立ち上げたことはあるか。またそのような相談があった場合はアドバイスなどを行っているのか。

（子ども家庭支援センター）

既存のサークルに参加することのほうが多い。相談があればアドバイスをする他、開催場所を整える支援を行うことが可能。

（委員）

参加人数は多いのかももっと増やしていきたいと感じているのか。また、参加者の中にはリピーターがいるのか。

（子ども家庭支援センター）

参加者同士の交流も目的としているので、定員を増やすとそれが満足にできないのではと考えている。講座のリピーターはおられるが、そういった方だけでなく、子育てに不安を感じているが、参加したことがない方へのアプローチが課題だと認識している。

（副議長）

地域で活動していても届けたい人へ届かないもどかしさを感じている。何か工夫していることはあるのか。

（子ども家庭支援センター）

地域で子育て支援をしているところへ伺い、当センターで実施している内容を周

知し、地域からも発信していただいている。また、子育てサポーター養成講座を実施しており、子育て家庭へ目を向ける地域の方を増やし、そこから講座に誘っていただければと考えている。

(委員)

産院でも同じような講座をしていると思うが、違いはあるのか。また、就学後も子育て不安があると思うので、そういった対象者へも今後講座を実施していくのか。

(子ども家庭支援センター)

健康センターや産院で実施しているものは子育ての心得が中心となっているものが多い。当センターへは心理面から子ども理解を中心に実施している。

就学後は学校などの所属があり身近に相談できる人がいるため、役割分担が異なると考えている。

(議長)

以前に調査をしたことがあり、子育てに不安を感じているのは第1子が多かったため、講座参加対象者を第1子としているのが非常に良いと感じた。

(委員)

申込み人数が定員を超えている講座があるとの説明だったが、資料では参加率が100%を超えているものがない。実際の参加は定員以下だったのか、それとも抽選などを行っているのか。また、別紙資料での情報源のその他には何が含まれているのか。

(子ども家庭支援センター)

資料では令和4年度及び5年度の実績を掲載している。定員を超えている講座は令和6年度から実施しているものであるため、資料への掲載はない。定員を超えた場合は講師と調整し可能であれば受け入れている。その他の情報源としては、当センターのInstagram、市公式LINEがある。

(議長)

LINEは個人情報が出てしまうことがあるのでどのようにしているのか。

(子ども家庭支援センター)

市公式のLINEに登録いただいた方へ講座周知を行っているため、個人でのやり

取りはなく、申し込みの際にも住所などの詳細は求めている。

(委員)

第1子を対象者としているが、第2子等がおられる家庭もそれぞれ悩みなどがある
と考える。そういった方の講座などはあるのか。

(子ども家庭支援センター)

管理栄養士や助産師による相談受付を月に2回実施している。その他、児童館や
当センターでは保育士が常駐しているため、日頃から気軽に相談できる体制となっ
ている。学齢期を対象にしているものは第1子など関係なく参加いただける。

(委員)

1歳児きらきら子育て講座は他と比べてボランティア数が多いのはなぜか。
同じ講座、会場でも参加率が異なるのは理由があるのか。

(子ども家庭支援センター)

一時保育を行っているボランティアの人数となる。1歳児の場合は1対1で行う
ため、人数が多くなっている。また、3日間実施しているため延べ人数となってい
る。

夏の暑さで参加率が下がることもあり、季節的な理由や対象者が参加しやすい会
場などで影響が出ていると考える。

(委員)

連続講座で、欠席した人へのフォローはあるのか。

(子ども家庭支援センター)

当日の資料配布や定期的な相談日の案内を行っている。

(委員)

参加率も大切だが、行きたい人が参加できることが望ましいと考えるので、産前
産後は行動範囲が狭まることを考慮すると、フレミラ以外でも実施していただきた
い。

(子ども家庭支援センター)

貴重なご意見に感謝する。参考にさせていただく。

(議長)

大学と連携というのは具体的にどういった方がおられるのか。

(子ども家庭支援センター)

甲子園大学心理学部の先生や臨床心理士の方に講師をお願いしている。生活面のことは、管理栄養士や助産師から教えていただけるが、赤ちゃんの心理のことについては、臨床心理士の方からきめ細やかに教えていただくことで、なぜ赤ちゃんが泣いているのかなどの気付きを深めている。また、こういった講座は他にないのご意見をよくいただいている。

(委員)

定例講座の他にニーズに応じた特別講座などは実施できるのか。また難しい場合は、必要に応じて社会教育課と連携していくことは可能なのか。

(子ども家庭支援センター)

昨年度に社会教育課と連携し、シニア世代などを対象とした子育て応援の講座を開催した。今後も必要であれば子育て世帯が望んでいることや社会教育の課題となっていることをマッチングさせながら講座を開催していくことは可能。

(議長)

シニア世代の子育て支援については、当時の考えのままの場合があるので注意が必要だと思う。

(子ども家庭支援センター)

シニア世代には、子育て世帯の応援団になっていただきたいと考えており、市全体で機運を高めていくため、昨年度に「たから・まご手帳」を作成した。これは、シニア世代に今の子育て事情を知っていただくガイドとなっている。民生児童委員や各児童館へ配布している。

(副議長)

子育てをする社会状況が変わっている。育児グッズなども以前とは全然違う。社会教育では今の子育て世帯が安心してもらえるように、子育てに関わる人以外へもアプローチが必要だと思う。例えば、出前講座に新しいプログラムがあれば良いと思う。

(議長)

時間となったため、質疑はここまでとさせていただきます。

資料 2 について事務局より説明をお願いする。

(事務局)

資料 2 をもとに教育基本振興計画の阪神間の状況を説明。

(委員)

三田市の世代間講習活動の支援（すくすく子育て課）はどういったことをしているのか。

(事務局)

調べた上で後日回答する。

広報や情報発信がキーワードとなるのではと考えている。伊丹市の就学前家庭教育学級は広報では伝わらない人も、漏れなく参加いただけるよう実施している。

(委員)

様々な場所で参加できることも大切だが、ここへ行けば話を聞いてもらえるという場所も必要だと感じる。

(副議長)

窓口へ行くほどではないが、日々の悩みなどを解消したい人は多いと思う。児童館や保育園の園庭開放など簡易な相談窓口は様々あるが、あることが届いていないのではと感じる。きらきらの冊子には名称「あのね」の記載を入れた方がいいのでは。

(事務局)

来年の 2 月頃に意見書（案）を提示したいと考えている。その後、3～5 月に会議を開催し、6 月初旬には教育委員会へ報告する予定。

2 報告事項

(1) 令和 6 年度阪神北地区社会教育委員協議会第 1 回研修会

日時 令和 6 年 1 1 月 2 2 日（金）14 時 00 分～16 時 30 分

場所 川西市郷土館

内容 施設見学及び説明

令和 5 年度 川西市社会教育委員の会提言書

(2) 令和6年度兵庫県社会教育研究大会

日時 令和6年11月27日(水) 13時00分～16時00分

会場 神戸市教育会館

内容 講演 「ユースセンターからはじまる若者参画」

講師 特定非営利活動法人ブレインヒューマニティー 事務局長

尼崎市立ユース交流センター センター長

片岡 一樹 氏

分科会

(事務局)

それでは、以上をもって、本日の議事を終わらせていただく。